

中国新聞紙【環球時報】2015年10月9日（金）文化・教育13版
松尾清一総長インタビュー逐次訳

名古屋大学校長：靠什么盛产诺奖得主

本报记者夏颖

名古屋大学総長インタビュー：ノーベル賞受賞者を輩出する理由
記者：夏穎

又到一年诺奖颁奖季，在目前已经颁出的获奖名单中，大村智和梶田隆章分别凭借医学界和物理学界的研究成果再为日本的荣誉簿添分增色。值得一提的是，在新世纪诞生的十多位日本诺奖获得者中，有6位都是与名古屋大学密切相关的研究人员。一所高校如何产出如此多的尖端人才？带着这个问题，《环球时报》记者日前专访到首次来华的名古屋大学校长松尾清一。

2015年のノーベル賞が発表され、大村智さんと梶田 隆章さんがそれぞれ医学生理学賞及び物理学賞を獲得したことにより、日本人の受賞者数がさらに増えた。ここで特筆すべきことは、21世紀に入ってから、十数名の日本人受賞者のうち、6名が名古屋大学の関係者であることである。なぜ1つの大学から、これだけ多くのトップレベルの研究者が輩出されたかについて、今回初めて中国を訪問した名古屋大学松尾清一総長がインタビューに応じた。

环球时报：自2000年以来，名古屋大学已经培养出6名诺贝尔奖得主。在您看来，能够多次获奖的原因是什么？

【環球時報】：2000年以來、名古屋大學から6名のノーベル受賞者が輩出された理由は何でしょうか。

松尾清一：我认为这和名古屋大学自由豁达的学风密不可分。名大是一所有140多年历史的日本高校，最早是从一所临时医院转型而来，发展到1939年成为二战前日本最年轻的帝国大学。1945年战争结束后，学校搬到现在的校址，再次白手起家。这样的经历让我们比其他日本高校少了上下级的辈分界限，学术气氛更为豁达，研究人员也更年轻有活力。去年，我们学校的赤崎勇和天野浩两位教授凭借蓝色发光二极管的研究成果共同获得诺贝尔物理学奖。他们两个人其实是师生关系。赤崎老师在带领弟子方面有很高热情，后者提供了大力支持。师生一起获诺奖，这在世界上都是少见的。天野教授现在刚刚五十出头，是正当年的业务骨干。他也是第二位还没退休就拿到诺奖的名古屋大学学者，第一位是野依教授。这在诺奖获得者中也不多见。可以说，强调自由和传承的特色帮助我们取得了现在的成绩。

松尾清一：理由は名古屋大学の自由闊達な学風にあると思う。名古屋大学は140余年の歴史があり、前身の仮病院が発足した後、1939年に最後の帝国大学として設立された。1945年の終戦後、現在のキャンパスに移転し、ほぼいちか

ら大学を再建したため、日本のほかの大学に比べると、若手の研究者が多く、上下の壁が少ない、自由闊達の学風がある。

昨年、本学の赤崎勇特別教授と天野浩教授が青色発光ダイオード(LED)の発明によりノーベル物理学賞を受賞した。2人は師弟であり、赤崎先生は強い信念を持ち、熱心に学生を指導してきた。先生と弟子が揃ってノーベル賞を獲得したのは、世界的にも珍しいことである。天野先生は今50歳代で、大学の中核的人材であり、現役でノーベル賞を取った。もう1人、野依先生も現役でノーベル賞を取った。これもめったにないことである。このように自由闊達な伝統を代々受け継いでこられたことがノーベル賞受賞者を輩出した理由の一つだと思う。

环球时报：截至目前，中国大学培养出的诺奖获得者很少。您是否认为中日两国高校在培养人才方面存在差距？

【環球時報】：現時点では、中国の大学からノーベル賞受賞者が少ない状況です。日中大学の人材の育成において、どのような違いがありますか。

松尾清一：我认为日本能频繁获得诺奖，主要得益于可以自由发挥的学术环境。特别是二战后，日本进入一个新的学术时代，自由科研的气氛很浓，这对经济重新起飞的日本来说发挥了重要作用。当然，我并不是说中国没有这种氛围。这次对中国多地的走访就让我发现，中国高校之间有着比较好的竞争关系。另外，中国近些年发表的高质量学术论文在国际上的引用率也在增加。高校研究者拿诺奖只是时机问题。我个人对中国目前的研究体制和享有的学术自由并不悲观。从另一点来说，中国学者也不必为追求诺奖有太大压力。如果学术圈弥漫着急功近利的空气，有些事情就会变味。中国在其他领域已经取得令世界瞩目的发展，我认为学界更要遵循循序渐进的原则，等待水到渠成的那一天。

松尾清一：日本には自由に研究できる学術的な雰囲気があり、研究者は十分能力を発揮できる環境にあると思う。特に戦後の日本は、新しい時代に入り、自由に研究できる雰囲気があり、日本の経済発展にも大きく貢献した。もちろん、中国には、そのような雰囲気がないとは思っていない。今回は複数の大学を訪問したが、中国の大学間では非常に良い競争関係があると感じた。また近年、中国の研究者による水準の高い学術論文の被引用回数も年々増加する傾向である。中国の研究者はいずれ受賞すると思う。個人的には、中国の研究体制と学術研究の自由は悲観的なものではないと思う。

中国の研究者にあまりプレッシャーをかけすぎると、目先の結果を求めることになってしまう。中国は今、様々な分野で著しい発展を成し遂げているので、研究も努力を積み重ねていけば、受賞する日がきっと来ると思う。

环球时报：日本政府于2001年提出“50年内培养30名诺贝尔奖得主”的计划，但日本国内有人对设定量化目标的做法表示反对。您怎么看？

【環球時報】：2001年に日本政府は「50年間で30名のノーベル賞受賞者を目

指す」という数値目標を示しましたが、日本国内ではノーベル賞はデジタル化できるものではないと反対する声もあったようですが、これについて、どのように考えますか。

松尾清一：我觉得获得诺奖的数量和这个国家的实力强弱没有必然联系。对于你提到的这个“诺奖计划”，日本国内确实有各种各样的声音。我个人认为，设立一个目标不是件坏事，各行各业都应该奔着既定目标去各自努力，这不光是诺奖的问题。当然，在推进过程中，一些勉为其难的做法是不可取的，比如强行将指标落在某个地方。

松尾清一：ノーベル賞を獲得した人数は国の実力と関係ないと思う。この目標に対して、日本国内には様々な声がある。個人的に、ノーベル賞に限らず、目標があることは悪いことではないと思う。各分野はそれぞれ目標を設定して、それに向かって努力することが大事である。しかし、強制的にやらせることは良くないと思う。

环球时报：在名古屋大学就读的中国留学生有多少？未来是否打算和中国教育界开展合作？

【環球時報】：名古屋大学の中国人留学生は何名ですか。将来はどのように中国の教育機構などとの連携を取ることをお考えですか。

松尾清一：名古屋大学の外国留学生目前占学生总数的10%，而中国学生在留学生中占到46%。据我所知，目前回到中国工作的名古屋大学毕业生有上百人，他们活跃在各个领域，这是很好的事情。不过也许是受到日中两国关系趋冷的影响，这两年来校的中国求学者数量略有减少。大家都知道，日中两国人才交流的历史远远早于战争年代，如今亚洲地区的发展在世界上扮演着越来越重要的角色，在这样的背景下，日中学界的联手更具重要意义。我这次的中国高校行不光是为搭个话儿，更想谈谈实质性内容。日本高校十分重视教育问题的全球化，名古屋大学正在和国外高校展开合作，培养双方共同认证的学位人才。颁发证书不是目的，我们希望的是让年轻人获得更多先进理念，将来成为学术带头人。

松尾清一：名古屋大学の外国人留学生は学生全体の10%を占め、そのなかで、46%が中国からの留学生である。私の知っている限り、名古屋大学で学んで、学位を取得して中国に戻り、就職した名古屋大学の同窓生が数百人いる。彼らは様々な分野で活躍されているようで、非常にありがたいことである。最近日中関係の影響か、中国からの留学生が少し減る傾向である。周知のように、日中の人材交流は第二次世界大戦のずっと前から始まり、長い歴史がある。今、アジアは世界でますます重要な役割を担う時代になってきた。このような背景から、日中研究界の連携はさらに重要である。今回の中国訪問は単なるご挨拶ではなく、実質的な交流について意見交換を希望するものである。日本の大学は、グローバル化に力を入れている。名古屋大学では、海外の大学とジョイントディグリープログラムを開始している。もちろん、卒業証書を授与することが唯一の目的ではなく、若い世代に先進的な理念を伝え、将来指導的役割を果

たしうる人材になってもらいたい。

环球时报：安倍内阁去年出台的中长期安保指针，强调了平时把握科技动向的必要性。您怎么看这个问题？

【環球時報】：昨年、安倍内閣は中期防衛力整備計画を出し、科学技術の動向を把握することが重要だと強調しましたが、それについて、どのように考えますか。

松尾清一：从常规角度看，很难严格界定哪项科研是只限于民用，哪项是只限于军事。不过我能确定的是，名古屋大学进行科研的目的是为造福生活，追求世界和平。我也相信大部分的日本国立大学不会有意去追求涉及军事方面的研究。

松尾清一：一般的に、この研究は民間のみ、あの研究は軍事のみに応用される、という具合に分けることが非常に難しいものである。名古屋大学は人類の平和と発展に貢献できるような研究を目的としている。日本の大半の国立大学は、明らかな軍事目的の研究を追求しないと思う。

环球时报：2014年的诺奖获得者中村修二曾批评日本学界的性别歧视。在推进女性参与高校事务方面，名古屋大学走在前列，您还入选“积极提高女性地位的全球10所大学校长”名单。为什么如此重视这项工作？

【環球時報】：2014年のノーベル受賞者の中村修二教授が、日本の研究界は性別による差別があると批判しましたが、大学における女性の参画に関して、名古屋大学は他をリードしており、松尾総長は女性の地位向上のために先進的な活動を推進している世界の10大学の学長の1人に選出されています。なぜこのような活動に力を入れているのでしょうか。

松尾清一：在和中国同行的交流中，我吃惊地发现中国有很多女性教授。而日本女性在生育之后不太容易就业，企业里做到部长级的女性更少。为了扭转现状，日本正在着手一项“启发活动”，着力打造男女共同参与建设的社会。作为大学校长，我愿意为女性创造更多就业机会。希望我们的努力能影响更多高校甚至企业，希望日本有朝一日也像中国一样，“妇女能顶半边天”

松尾清一：中国の大学の女性教授の数多さに驚いた。日本の現状では、女性は出産した後、就職が難しくなり、企業にしても部長クラスになると、女性が本当にわずかしかない。このような現況を変えるため、今「啓発活動」に取組み、男女共同参画できる社会を作ることを目指している。大学の学長として、私は女性に更に多くのポストを提供したいと考えている。私たちの取組みが他の大学、企業に良い影響を与え、将来日本も中国のように女性がさらに活躍できる社会になってほしい。